**法輪寺**

法輪寺の創建の年代ははっきりしていないが、基礎的な物語が2つ存在している。ひとつは、山背大兄王（643年没）とその息子の由義王が、山背大兄王の父親である聖徳太子（574〜622年）の病からの回復を祈るためにこの寺を建てた、とするもの。聖徳太子は日本の建国の歴史における重要な政治家で、622年に病に襲われた。もうひとつの物語は、僧の圓明と開法師、下氷新物（朝鮮の百済王国からやってきた）の3人が集まって、法輪寺をつくった、というものである。

三井寺という別名を持つ法輪寺は、7世紀に完成した当時は現在よりも規模の大きな寺であった。13世紀ごろから衰退が始まり、1645年には台風によって伽藍の建物がほとんどすべて破壊されたが、三重塔だけが残り、その後も3世紀にわたってそのままの姿で立ち続けている。法輪寺は18世紀に再興され、本堂と講堂が再建された。今日、法輪寺には、重要文化財に指定されている十一面観音像をはじめ、数多くの宝物が収められている。